広報しんじゅく

「新宿力」で創造する、やすらぎとにぎわいのまち

平成22年(2010年) 6・15 第1962号

発行 新宿区　編集 区政情報課　（毎月5・15・25日発行）
〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1 ☎(3209)1111
ホームページ http://www.city.shinjuku.lg.jp/
携帯電話版 http://www.city.shinjuku.lg.jp/m/
携帯電話用二次元コード

しんじゅくコール
☎（3209）9999
（午前8時～午後10時、1/1～3を除く毎日）

今号の主な内容

2面 新宿WEバス写真コンテスト作品募集
3面 国民健康保険料の納入通知書をお送りします
4面 特集「すてないで」ごみ半減・リサイクル倍増を目指して
6面 女性の健康専門相談を開始
8面 区の宿泊施設で心と体をリフレッシュ

6月23日～29日は男女共同参画週間

話そう、働こう、育てよう。いっしょに。

（平成22年度内閣府「男女共同参画週間」キャッチフレーズ）

男女共同参画社会の実現には、男女が互いを個人として尊重し、性別にかかわらず、仕事と家庭・育児・介護・地域活動等をバランスよく担うことが大切です。

女性の職場への参画だけでなく、男性の育児・地域活動への参加など、男女が共にさまざまな生き方を選択できるよう働き方を見直すとともに、男女が社会の対等なパートナーとなるよう、社会の制度や慣行のあり方を考える必要があります。

この機会に、男女共同参画社会の実現に向け、わたしたちが家庭・地域・職場でできることを考えてみませんか。

【問合せ】男女共同参画課☎（3341）0801へ。

女性の参画の推進

区の政策決定過程への女性の参画を推進するため、「新宿区男女共同参画推進計画」に基づき、「平成23年度までに審議会等において一方の性が40％を割らないこと」を目標にし、女性委員の登用を推進しています。また、職員に対しても、男女がともに参画していけるよう意識改革を進めています。

現在、区の審議会等における女性委員の比率は、東京都や特別区平均に比べて高くなっています（左表）が、今後も目標の達成に向けて、より一層取り組んでいきます。

審議会等における女性委員の比率

新宿区（22年4月1日現在）	33.7%
国（21年9月30日現在）	33.2%
東京都（21年4月1日現在）	20.4%
特別区平均（21年4月1日現在）	30.3%

働き方を見直してみませんか ワーク・ライフ・バランス推進企業を支援しています

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）が実現した社会の姿とは、一人一人がやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、子育て期・中高年期といった人生の各段階に応じて、多様な生き方が選択・実現できる社会です。

区では、長時間労働の改善や就労環境の整備などを行い、柔軟で多様な働き方ができるよう、ワーク・ライフ・バランスを推進する企業を応援しています。推進企業の認定、企業へのコンサルタント派遣、セミナーの開催などの支援をしています。ご相談ください。

ワーク・ライフ・バランスセミナー

仕事と家庭の両立のために ～改正育児・介護休業法のポイント

【日時】6月24日㈭午後2時～5時

【対象】区内の事業所・区内在住の方ほか、50名程度

【内容】▼育児・介護休業法改正のポイントを、実例を交えながら解説（新田香織・社会保険労務士）、▼ワーク・ライフ・バランスに関する意見交換会

【費用】無料

【会場・申込み】電話かファックス（記載例（5面参照）のとおり記入）で男女共同参画推進センター（ウィズ新宿、荒木町16）☎（3341）0801（日曜日を除く）・FAX（3341）0740へ。先着順。インターネットの電子申請でも申し込めます（新宿区ホームページからリンク）。

男性の育児・介護を支援する企業を応援します

サポート企業の登録を受け付けています

区内の中小企業を対象に、男性の育児・介護休業の取得や育児・介護のための短時間勤務を推進している企業を「サポート企業」として認定・登録し、男性従業員が育児・介護休業等を取得後、要件を満たす場合には30万円を上限に奨励金を支給しています。要件等詳しくは、お問い合わせください。新宿区ホームページでもご案内しています。

奨励金支給の流れ

サポート企業の認定・登録 ⇨ 男性従業員が育児・介護休業等を取得 ⇨ 当該男性従業員を1か月以上雇用 ⇨ 奨励金の申請 ⇨ 奨励金の支給

ワーク・ライフ・バランスの実践 社会全体で子育てを

【問合せ】教育政策課地域家庭教育係（本庁舎4階）☎（5273）3147へ。

保護者の方へ 家庭の教育環境を考えましょう

区では、次代を担う青少年の育成に重要な役割を持つ家庭の教育力の向上を支援しています。

社会生活に必要な習慣やマナーを身に付けるには、家庭の教育環境が重要です。子どもは親の姿を通して、基本的な生活習慣や社会とのかかわり方を習得し、感情のコントロールのしかたや自分への信頼感などを身に付けていきます。

保護者の方は、保護者会や家庭教育学級等に積極的に参加し、親同士のつながりを大切にして、お子さんを育てていきましょう。

事業（雇用）主の方へ 家庭の教育環境整備にご協力を

区では、家庭の教育力の向上のため、保護者の方が学校行事やPTA活動に参加できる環境づくりを推奨しています。

次世代を担う人材を育成するためにも、地域社会全体で子どもを育てることが大切です。また、ワーク・ライフ・バランスの観点からも、働く方の家庭教育活動への積極的なかかわりが必要です。

事業（雇用）主の皆さんには、社員・職員の皆さんが学校行事・家族行事等に参加できるように、休暇の承認や職務免除等に配慮していただくようお願いします。

コラム 新宿 まち・人・しごと

新宿ゆかりの文人の記念日が多くある6月。戸塚町諏訪や柏木に住んだ太宰治は6月に生まれ6月に没し、太宰の忌日は桜桃忌として知られています。実は、6月を代表する果物のサクランボ（桜桃）は、新宿にゆかりがあります。▼明治の初め、新宿御苑の地に「内藤新宿試験場」が政府により設置され、農産物、特に西洋果実のルーツの多くは新宿御苑にあるそうです。サクランボも、新宿御苑から配布された苗木が栽培の始まりと言われています。果樹園芸のふるさと「新宿御苑」は、今では都心の緑の宝庫として多くの方々に愛されています。▼新宿のまちは多様です。歌舞伎町は、大衆文化・娯楽の遺伝子を持つまちとして進化しています。区立大久保公園が6月17日、文化・芸能・スポーツの場「シアターパーク」としてリニューアルオープンします。▼フットサルやバスケットボールを楽しむこともでき、子どもたちにプロ選手が指導するイベントも、19日・20日に行われます。7月2日から8月末までは、特設テント劇場で、新宿ならではの懐かしいブルースナイトや新宿の人・夏目漱石にちなんだ「反骨」喜劇「東京・坊ちゃん」、吉本の人気芸人による「お笑い」などが満載です。芸能は時代を映します。▼漱石の今日に通じる反骨精神を通して、閉塞感にも似た時代の空気を吹き飛ばしたり、懐かしさに泣いたり、バカバカしさを笑ったりで元気になれたらと思います。ぜひ足を運んでいただき、新宿の新たな時代を創っていただけることを願っています。

区長 中山（なかやま） 弘子（ひろこ）

★本紙は新聞折り込みでお届けしています。主な区立施設・駅・スーパー・新聞販売店などにも置いています。新聞を購読していない方には配達します。